

「あすなろ」個人参加難病患者の会 1974年  
 「あすなろ会」発行 5号 5月5日

五月の声をきいて、体ものびやかに、新緑と美しく感じます。会員の皆様お元気でしょうか。

この1ヶ月に新会員6名を迎えました。

脈打し病 2名 交通事故後遺症 2名 慢性肝臓  
 小脳性失調症

現在「あすなろ会」の会員の病名は次の通りです。

パーキンソン症候群 7名 脈打し病 8名 エド-セ  
 小脳性失調症 3名 脳下垂体異常 手術後遺症

動脈硬化 交通事故後遺症 3名 脳出血後遺症  
 自律神経失調症 癌 2名 難聴 3名 尿管症 2名

足痛症 パーキンソン病 色素性皮膚症 慢性肝臓  
 気管支拡張症 糖尿病網膜症 癩 3名 不明 4

病名 20 不明 4 2名。あすなろ会におきまして、  
 「難病」と認め、治療費の公費負担の必要を  
 ますます強く感じます。会費は永い年月を以て、

現在も病とたたかい、生活にいます。医療と、  
 生活の困難の所が多くなりまします。

皆で力を合わせ、治療費公費負担を実現させ

るよりに努力(まじり)。

その後のニュース その他お知らせ。

4月6日 役員会 2名出席、年間計画を立てる。  
「例会」5月12日、9月、11月3日(1周年大会)  
50年新年会 1月20日、1年間に4回持つ。

「大会」6月9日(日) 道難症連1周年大会。

「療育」7月、8月、定山溪に2泊、療養指導を  
し、活(合)。

会誌「あおなご」発行、年間10回

50年3月、年間「あおなご」の中から患者の手  
記に、医師指導解説をつけた、パンフレット発行。

財政上、賛助会員制度をとり、年間会費1,000  
とし、「あおなご会」を後援に下さる方を会誌  
にお願ひする。現在3名いらっしゃいます。  
賛助会員にお願ひ下さる方がいらっしゃいましたら、  
会誌 御連絡下さい。お願ひに上ります。

4月9日、

「あおなご」4号を持つて、道庁、衛生部、各  
党道議控室を巡回して、御理解をお願ひする。

午後 スモ裁判 24日公判傍聴 冷四 5月17日(金)

4月14日 難病連理事会 (第12回)

1. 48年度 決算報告、監査報告、活動報告を承認。

49年度 予算 運動方針を可決し、新役員を選出した。

事務局長 常任理事 伊藤たけふ (節無加症)

常任理事 川口道雄 (日節協)

常任理事 三森礼子 (片脊原病)

原たか (あすなろ)

会計 監査 太田健二郎 (リウマチ)

2. 難病のつどい開設 難病連が移転した。

新住所 札幌市中央区大通西8丁目 足田ビル2F  
電話 261-8026 市立病院の南向い

3. 6月9日 第2回大会

各参加団体は患者、家族の参加を呼びかける。  
「あすなろ会」から大会に呼びかけ、発言のある方は、  
甲出2つ。医師や行政方面から、お話しをきく  
い機会です。御参加下さい。

4月24日～26日

北大病院 看護強行実施 反対の空り込み。  
「あすなろ会」からのべ6名 難病連1名。  
マスクなどおごり、御存知と思いきや、この問題  
は、私どもにとり、実に大変なことです。

道新 (5月7日付)「今日の話題」から要約すると、  
「基準看護」は健康保険診療と提携規則から定め、  
病院側が厚生省の要する基準を満すだけの看護  
婦を配置し、都道府県の承認を得た場合、患者当  
りの看護婦数にたいして、1日940円から3800円の看護  
料を健保組合に計算請求(本人でない場合は  
3割自己負担)できる。この「承認を得た看護体  
制」を基準看護と呼ぶ。この基準は「特類」から  
「2類」まで3段階あり、「特類」は入院患者3名に1名  
以上、「1類」は4人に1人以上の看護婦を配置する  
必要がある。だがこの「基準看護」は患者の世活の  
すべてを病院側がみる建前。看護婦の仕事はつ  
くなく、患者は「付き添い看護婦」を求め、全額自己  
負担しなければならぬ。今度の紛争は、患者まで  
まうと大きなものとなった。病院側が「基準看護  
」承認申請を延期したために一穴は静かにな  
った。看護体制の紛争のとりわけに2.8.  
(ニッパチ)がある。「いまの看護婦の仕事は、あまりに  
過重。せめて1ヶ月の夜勤を2人勤務で8回以内、  
との要請。月8回の夜勤でも4回に1度のきつい  
「付き添い」を必要としたい建前とよりの「基準看護」

は、仮に2.8、体制が整ったとしても、簡単に、  
果たせまい。重症患者の場合は、1人の看護婦が  
付きまわりになることがあるからな。医療制度の  
価値は、どうにもなるぬところまで深刻化している。  
以上のように、家族の付き合いが必要な場合に、  
お水が足りない時には、入院させないとか、退  
院させるということがあるわけだ。病院に独  
立採算を強要している政府に、私も強い  
いきどおりを感じます。この運動は本来、患者や  
家族が中心となるべきなのに、今回は大  
病院の看護婦さん、職員の方達のねばりついで  
いによって、延期されたのが、矛盾の大きい、深  
き身をもつて知る事になりました。私も患者と  
病院、医師、看護婦の間には、多くの難問が残  
りました。今回の座りこみによる経験は、医療の  
解決に、医師、職員、行政に患者、市民が協力  
したという教訓も与えることができました。又マスコミ  
の力も大きかった事に感謝いたします。私共  
の問題として、お水から見守っていきましょ。

5月5日 難病に10疾患追加指定。

お水と20疾患が。49年度から10疾患を追加。

(推定患者数約13万)本年度予算30疾患277億  
34万円(研究費)

公費負担難病は、カルコイドーシス、強皮症、  
筋萎縮性側索硬化症、特発性血小板減少性紫斑病  
の4疾患である。初年度は、ベテロ、スモ、特発  
性硬化症、重症筋無力症、全身性エリマトーシス、  
再生不良性貧血の6疾患と合わせ、10疾患となる。  
北海道では、4月から難治性肝炎、血友病も負担  
合計12疾患となる。新規4疾患公費負担は10月

1日スタートおよび、道では4月から補助する。  
子供の難病の公費負担は、初年度は、小児がん、  
慢性腎疾患、セリク、先天性代謝異常症、血友病  
の5疾患に、糖尿病リウマチ型を含む膠原病、  
慢性心臓病、内分泌疾患の4疾患が加わった。

追加指定難病10疾患は次の通りです。  
溶血性貧血、肺動脈瘤、特発性心筋症、  
免疫不全症候群、脳脊髄血管異常、慢性腎炎、  
網膜色素変性症、天疱瘡、X-コル病、慢性膀胱  
東京都では、次の疾患が公費負担されることになり  
ました。17疾患(49年度から)です。

アミトロ、汎発強皮症、カルコイドーシス、特発性  
血小板減少性紫斑病、皮下筋炎、パーキンソン、急性肝臓

肝硬変、慢性肝炎、高血病(脈圧病)、血友病、  
脊髄の脳変性症、クリス動脈閉塞症、真頭てんかん、  
リポドイス、悪性関節リウマチ、悪性腎硬化症。  
以上がそのほか、本京都の場合、あすなろ会の会  
員のうち、かなりの方が公費負担されることになり、  
北海道でも、日早い実施を切望にやみません。  
5月3日、道新「タイム」に「あすなろ会」が  
紹介されました。これから会員の申込みがしきりです。  
身重かに難症病に悩む方がいらつ(や)ましたら、あ  
すなろ会をおすおめ下さい。皆の力を合せて、解決  
にいきましよう。「あすなろ会」は皆の会です。

今回は聴力を失われ、且弱視といふ会員の手記と  
難聴の治療(中国針による)を受けられた方のとま  
のせました。

「失明の衝けきにも耐えて」

私は体は自由に重たし身は出まあるが、又歩くとき  
でも人間の最も大切な五管のうち、目と耳のゆきを  
3台と失っています。それは苦しい長い人生のけわしい  
荒波にもまれ、波間にたゞよう木の葉のようなま  
たのです。精神的な苦痛と斗い、周囲の嘲笑に  
とまどいいながら、嫁して、6人の子の意見と12  
3度の失明の恐怖によびこられ、どうにか今日

まご金手扱ひにまました。人々がラジオをたのしみ、テ  
レセに興ある時、うすぼんやりの世界の中を別で  
感じ、言葉の意味も聞きとえず、ひつとりといはる  
自分の海を哀れは、多くの人々が見定める視差の  
あわよとあると思います。私は13才の時、春の  
一夜に、失明しました。私は今なお言葉に  
絶する母子の口實をこした。突然の暗黒の日々。  
書きつくせぬ苦しみも、母の南身的な看病と祈願  
によつて幸に、好転して、光明の世界に青春  
のよろこびをつかみましたが、数年に、再び失明  
の危機にさらされ、長女出産の身重の体を信仰に  
かたてました。父と共に亡き母の靈にすがり  
つゝ、四圍八十八ヶ所の信心の旅に祈願を  
こめ、遍路を続けました。身心の明るきととり  
もどしたものの、この頃より耳が遠くなり、言ふこと  
聞えず、原因不明の難聴に、日夜苦しみ  
ノドセになりました。永年におたる医療の甲  
斐もなく、感音性難聴といふ。文明の利益の  
補聴器すら用にならぬ有様です。眼は二度の  
失明で視界はせまくなるとはかりました。その中  
から、戦前 戦後の中を6人の子供の母として、



必死に生き抜いてきました。医療に見捨てられ、  
自分自身の信念によって、今は六人の成長した子供  
の母とみる時、一夜に2知月した衝けきは、  
今に到るまで、昨日のよ様な鮮明な2年4の脳  
裏をはなれません。不自由な身で、毎日をたいて  
人命に生き流けています。一生流れておるこの障害  
と最後まで闘うつもりです。子供のため自分のため  
今は一日でも長く生きる事を望み、一日一日を大切に  
に生き流けてゆきたいものと思つてをります。

「難聴針の治療をうけた」

私は今年の1月半ばから15日、難聴の針治療を  
受けに上京し、幸甚治療効果が現われ、家族と  
もども喜んでいられるものです。少しづつお役に立ちは  
と思い、経過を書きました。

発病は16才の初夏、突然でした。よく清れた耳の  
よい朝でした。激しい耳鳴り、何か起きるとか  
わからぬ有様、耳を小さくしたり、首を振ったりし  
ても耳太目でした。それから18年、度々止むことなく  
私の耳は流れていきます。貧しい家庭の経済  
状態をよくわかっていましたから、病院へ行くこと  
を申し出ることも出来ず、がまんし高校を卒業し、

近聴会という近所治療院で治療を受けた患者の  
会が、ねばり強い運動の結果ということだ。

難聴針の治療は、おすかの苦痛を耐えれば、後は  
多持よく、針をうつたその日から耳がすっきり、耳の奥に  
スースーと風の通るような気がし、自動車の音がゴゴ  
聞こえます。ステレオのキリウ4と火に2上げて持  
こえなかつたのに、3日目から音が大きくなるのがわか  
ります。4日目5日目と左の耳のつまづいた感じがとれ  
耳が開いたような気がします。新聞を流くといふと、  
顔全体で流くといふ気がします。頭の重たさと  
れ、何と元気になつて帰つた事によ。

休服の関係で、最低必要な30回を受けられず、  
26回で帰礼しました。26回の治療の結果、右  
は15レベル左は7レベルよくなりました。右は中度左  
は重度難聴です。概ねよく治療が受けれるように  
1日も早く札幌に治療院のこけのこを待たれます。

後記、この1ヶ月多岐にわたる植村さん(ボラルテアの)  
は難病連のよき越えを手伝い、「あまた3会」の仕事  
を手伝つてはいます。会員の手記をお読みしてはいます。  
6号は「肌なし病」をとり上げたいと思つてはいます。  
病の心を支え、会員の心をつなぐために、会の発  
展に力をよ寄せたい。くれぐれと御身御大印に。(原)

勤めから始め、北大病院で診察を受けました。耳鳴りが起きるから3年たっていました。この間に聴力は降下し、不自由を感じる事が多くなっていました。診察の結果、両内耳性難聴といふ事、原因も、治療方法もよくわからないといふことでした。15才の時、結核でストロプトマイシンを打っているのに、或はこれが原因かといふ事とも言われました。この時以来、びろり5年は通院し、通気療法、アリケル、ヘキサミン、注射を続けましたが、殆ど効果はなく、聴力は落ちるばかりで、いつか左の耳は殆ど聴力を失っていました。聴くが悪いと身体が疲れる、疲れると増々聴くが落ちるの悪循環で、身体は堪え難くなるばかり、この10数年のうちに、両白内障、リウマチ、肝障害、胆道の障害、貧血症、粘液水腫、けいれん、痙攣と休む間なく、病気をしつづけ、年々、屋敷に引き、薬や注射を続けると、副作用が出て、頭痛、寒感、湿しさに悩まされ、それと引き返りながら病気が続きました。難聴の方は、治療を続けると効果はなく、職場からの通院は大変なのでこのままに任置きました。唯身体だけは何とかしたい人並みにたくとも今よりは長くしたいといふ事思っていましたから、

人がてに、重労働で漢法率と針による治療を  
しつと聞い、早速 全身治療を受けなから、難  
聴針の治療も引けた結果、左の耳が、かたよから  
音を感じたのである。望みが全く機会を待つていたが、  
「赤旗」新聞に、中国難聴針「近藤治療院」  
の記事が、出ました。数年前に、同紙に同じ記事が  
たのであるが、子供達も、大きく上率は無理でした。

今回は、子供は、5才と、母も同居していま  
たから、職場には、休暇願いを出し上りました。

「近藤治療院」は、東京都豊島区南大塚2-211におり、  
国電大塚駅前にあります。近藤先生は、お母方の先生  
方は大変熱心で、患者を1体1体で治療に心を  
砕かれたいと、感激しました。北海道からは、13名は  
3人の方が治療に申し込まれました。13回が1クール  
で1日おきに3回おこなわれ、1クールは1ヶ月かかります。  
治療費は13回で64円でした。(普通1回の  
針治療費は4500円位です。)これは患者の  
負担となすべく、申したいと1/3の治療費で治  
療にいます。富士宮市では、近藤治療院  
に通う。交通費も、治療費も、金額市が負担し  
て、これが難聴の程度にかかわらず支給されています。